

# 第5回非核平和都市宣言起草委員会協議資料

平成23年1月26日（水）15時30分  
京田辺市役所3階305会議室

京田辺市平和都市推進協議会  
非核平和都市宣言起草委員会

## 目 次

議題 起草案（案）の確定について	1
パブリックコメント募集・提案概要	2
パブリックコメントで提出された意見及びその回答（案）	3

## 議題 起草文（案）の確定について

## パブリックコメント募集・提案概要

### ○ 募集の概要

#### 1 募集期間

平成22年(2010年)12月17日(金)～平成23年(2011年)1月17日(月)

#### 2 閲覧場所

市ホームページ、市役所総務室、市役所行政資料コーナー及び主要施設（中央公民館、中央図書館、北部住民センター、中部住民センター、社会福祉センター及び三山木福社会館）

#### 3 意見募集対象

市内に在住・在勤・在学されている方、市内に事務所または事業所を有する方

#### 4 意見提出方法

任意の様式で、電子メールのほか、郵便または信書便、ファクシミリ、書面の持参により提出

#### 5 広報手段

- ・ 関連資料及びしおりを閲覧場所に設置
- ・ 広報京たなべ1月1日号に掲載
- ・ 市ホームページに掲載

### ○ 提案の概要

#### 1 提案総数

提案者 5人

#### 2 提出手段別提案数

手段	人数
郵送	1人
ファクシミリ	1人
持参	3人

## パブリックコメントで提出された意見及びその回答（案）

提案者 5人 意見 7件

提案者等	意見の概要	回答（案）
A	<p>「非暴力と対話で核兵器の廃絶と世界の平和を訴え・・・」という表現があるが、安全保障のために用いられる経済封鎖は暴力と言えるのではないのでしょうか。経済封鎖をも認めないものとするは現実的ではないため、「非暴力」という表現をするのは好ましくないと考えます。</p>	<p>「非暴力」という用語の主旨をより明確にするため、「非暴力と対話で」という表現を「武力ではなく対話で」というわかりやすい表現に修正しました。</p>

提案者等	意見の概要	回答（案）
B	<p>「ぼくたち、わたしたちも……」の表現を「ぼくたち、わたしたちも 世界の平和のために 未来の平和のために できることをがんばります」にした方がよいと思います。</p>	<p>こどもたちの未来に向かっての決意を強調するために、「平和のために」という表現を「平和な未来のために」という表現に修正しました。</p> <p>「世界の平和のために」という表現については、前後に世界平和に関する記述があるため、ここでは用いないことにしました。</p>

提案者等	意見の概要	回答（案）
C 1	<p>平和への願いは、人類普遍のテーマであると思います。今回の宣言は、そうした普遍性を持ったものが望ましいと思います。</p> <p>20年、30年後、ともすれば50年後、100年後においても、この宣言が京田辺市民の生活やまちづくりの基盤となるものであってほしいと思います。</p> <p>その点から見たとき、今回の宣言文は、今を生きる市民からのメッセージをもとにされている部分がありますが、「多くの市民から寄せられた」という表現は、「今」的な表現であることと、こうした想いは、未来の子どもや市民も同じ想いを持つものと思います。そのことから、未来の人の願いも共有するような表現とすることが、より普遍的なものとなるのではないのでしょうか。</p>	<p>ふたつのメッセージを宣言文に盛り込んだ理由をより明確にするため、「多くの市民から寄せられた」という表現を「世代を越えて受け継がれる」という普遍的な表現に修正しました。</p>
C 2	<p>これからの社会は、よりグローバルになってくると思います。自分の住む地域や国を愛する心を持ちながらも、同じ地球に住む者の一人一人であることの自覚をもつことが、戦争や紛争をなくすこと、さらには地球環境を守っていくことにもつながるものと思います。そうした点にも触れた表現なども盛り込めたらいいのではないかと思います。</p>	<p>「家庭から地域、地域から世界へと」という表現の中にグローバルな視点が含まれているものと考えます。</p>

提案者等	意見の概要	回答（案）
D	<p>以下を平和宣言で中心にしたいところだと思います。</p> <p>地球の環境は太陽の光と熱を受けて適当な状態をつくり、人間を含む生物を発生し進化が進み、最高な動物としての人間を育ててきました。現代人の世界が始まったばかりという段階で今の人間は地球の属性にはまり込んで“不動の大地”を実感している日常ですが、宇宙空間を移動している「地球の存在」と「生物の生存」を認識すれば、戦争はしない、話し合いで解決する、常識であたりまえのことを考え直してみる必要に迫られることが多いのではないのでしょうか。そこで豊かで幸せな社会を構成し建設していくためには、“宇宙の中のホコリの一粒”にもあたらない極小さい存在なので世界を一つと考えて生活している地球を愛し、自然と環境を大切に人間社会が永続していく必要を痛感すると同時にその責任をも感じています。「地球の存在」を認識する人間にこそ実現できることでしょう。生物の成育には「欲」は必要ですが、人間では「欲」を抑え「欲張り」にならない「地球を愛する会」を育てましょう。そして子孫にはその社会を確立して引き継いでいく重責があります。この21世紀にこそ、この時代を築きたいものです。</p>	<p>「家庭から地域、地域から世界へと」という表現の中に地球というグローバルな視点が含まれているものと考えます。</p>



提案者	意見の概要	回答（案）
E 1	<p>総論の羅列の宣言も大事だが、一人一人が身近にできるサブローガンの、具体的な努力目標の設定が大切だと感じます。緑化運動、地方紙、ミニコミ誌を巻き込んだ平和に対しての意識啓発運動もよいと思います。従来型の講演会形式では、広い層の範囲での啓発は困難と考えます。</p>	<p>平和への行動については、「一人ひとりが平和の実現に向けて努力する・・・」の部分に記述しています。</p> <p>いただいたご意見は、今後、平和事業を推進する際に参考にさせていただきます。</p>
E 2	<p>国連でも今よく意識されているキーワードに「地球市民」と言うのが有ります。京田辺市発信云々は非常に大切なキーワードで有ると存じますが、人類の大きな連帯無くしては世界の核廃絶・平和社会は叶いません。個々の意識をよりグローバルに、又スケールの大きな宣言にするためにも「地球市民」の文言の挿入が大切なのではないのでしょうか？むしろ国連に先駆けて「宇宙市民」と言う文言を創っても良い位です。</p>	<p>「家庭から地域、地域から世界へと」という表現の中に「地球市民」というグローバルな視点が含まれているものと考えます。</p>